

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 1, 月 / Mon 2
開講期間 / Class period	2017/09/29 ~ 2017/11/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170586022501	科目番号 / Subject code	05860225
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMA 14321_005		
授業科目名 / Subject	日本を知り、世界を知る (近現代のアジアと日本) / Asia and Japan in Modern and Contemporary History		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	中村 則弘, 野上 建紀 / Takenori Nogami		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	中村 則弘		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	中村 則弘		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育C棟16 / RoomC-16		
対象学生 (クラス等) / Object Student	1年次		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	nnakamura nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室 / Laboratory	総合研究棟12F		
担当教員TEL / Tel	095-819-2930, 095-819-2951		
担当教員オフィスアワー / Office hours	メールによるアポイントメント		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	東アジアと日本の関係は、ある意味で「捻じれ」ています。それを「『考える』ためのきっかけ」として、いまという時代の根幹をなしている近代世界システムを理解し、日本社会、中国、韓国社会の歴史的特殊性について学びます。そのうえで、近代西欧の発展のあり方自体を問い直し、オルタナティブな可能性を探ります。		
授業到達目標 / Goal	1) 東アジアと日本の近現代の関係について説明できるようになる。2) 東アジアにおける民衆世界の重要性を理解する。3) 日本と中国、台湾、香港、韓国とのこれからの繋がりについて、自分なりのしっかりとした見方を持てるようになる。		
授業方法 (学習指導法) / Method	プリントや画像、映像、社会調査データなどを利用し、具体的な資料を提示しつつ講義を進める。講義では、学生自らが考えることを重視する。2回程度の授業時間を用い、グループワークという形で学生が主体的な現地巡検、聞き取り調査、資料調査などを行うこととする。その成果は、授業中に報告することとなる。		
授業内容 / Class outline / Con	近代世界システムとの関連での日本社会、中国、韓国社会の歴史的特殊性について考える。そのうえで、史的な東アジアの民間の結びつきを軸としつつ、民衆世界の重要性に論及する。授業を通じて、近代世界システムからのオルタナティブということの基本視座とする。		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	予習・復習のためのレポート提出を求めることがある。また、グループワークの取りまとめに関連する学習が必要である。		
キーワード / Key word	近代世界システム、東アジア社会、民衆世界、脱オリエンタリズム、社会学		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	適宜プリントなどを配布し、教科書は用いない。参考書は授業の進捗に応じて指示する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	主体的学習成果の報告をもって60点とする。最終試験は40点(満点)とする。なお、成果報告と最終試験の評価では、いかに「考えたか」が重視される		
受講要件 (履修条件) / Requirements	授業内容にかかわる資料、書籍・論文の精読に取り組むこと、主体的学習に高い意欲をもつことを要件とする。		
アクセシビリティ / Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ / Message for students	主体性、自主性を重視します。「子曰、不憤不啓、不啓不發、擧一隅而示之、不以三隅反、則吾不復也」(論語、学而第七)でゆきましょう。		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	講義の目的・内容をめぐるガイダンス		
第2回	歴史的にみた東アジアの思想、科学、政治、経済		
第3回	近代世界システムと東アジア諸社会		
第4回	日本社会の歴史的特殊性		
第5回	中国社会の歴史的特殊性		

第6回	コリア社会の歴史的特殊性
第7回	グループワークによる主体的学習
第8回	主体的学習成果の報告と討論
第9回	主体的学習成果の報告と討論
第10回	グループワークによる報告内容の取りまとめ
第11回	オリентとオクシデント
第12回	脱オリエンタリズムをめぐって
第13回	東アジア民衆世界の持つ可能性
第14回	授業のまとめ：近代世界システムからのオルタナティブ
第15回	試験

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1
開講期間 / Class period	2017/09/29 ~ 2018/01/23		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170586022901	科目番号 / Subject code	05860229
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMA 14331_005		
授業科目名 / Subject	日本を知り、世界を知る (人々の暮らしから見る現代日本) / Modern Japan as Seen from People's Everyday Life		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	野上 建紀 / Takenori Nogami		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	野上 建紀 / Takenori Nogami		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	野上 建紀 / Takenori Nogami		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟43 / RoomA-43		
対象学生 (クラス等) / Object Student	教育・経済・薬・水産		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	nogami-takenori@nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Laboratory	総合教育研究棟11階 野上研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2919		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールによるアポイントメント		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	私たちは「モノ」に囲まれて生活している。そして、「モノ」には個人や家族、社会が反映されている。そのため、「モノ」を観察すれば、その社会背景を知ることができる。授業では、生活に使われた「モノ」の一つである陶磁器の変遷を通して、陶磁器に投影された人々の暮らし(生活、産業)の変化を見ていく。そして、過去がどのように現在につながっているか考える。授業は主に考古学の研究成果をもとに行うが、近世・近現代という比較的新しい時代を対象とする。そのため、考古学以外の歴史学(文献史学)、民俗学、民具学の成果を引用しながら、総合的に「モノ」を見ていくことを心掛ける。		
授業到達目標/Goal	1.長崎県の地場産業の一つである窯業(陶磁器産業)の歴史と現在について説明できるようになる。2.身近な生活用品の変化から生活様式の変化を説明できるようになる。3.江戸時代の磁器と現代の磁器の技術の違いを説明できるようになる。		
授業方法(学習指導法)/Method	プリントや画像、映像資料、パワーポイント等を利用して、具体的な遺跡やその資料を提示しながら、講義を行う。講義の中で適宜、図や写真を観察しながら情報を引き出す作業を行う。10回程度、知の整理をするためのレポートを課す。予習・復習のために長崎市内の関連遺跡や博物館施設の見学レポート提出を課すことがある。		
授業内容/Class outline/Con	近世・近現代考古学の調査研究成果から、「モノ」を通して過去と現代社会との関わりについて考える。特に長崎の伝統地場産業の一つである窯業(陶磁器産業)について、その成立から変遷をたどり、現代の地場産業にどのようにつながっているか、見ていく。 そのため、以下のとおり、授業を構成する。第1回と第2回は、講義目的、内容などのガイダンスとともに、近世・近現代考古学の目的・方法などを紹介する。続いて第3回と第4回は暮らしと「モノ」の関わりを紹介する。第5~13回は長崎の伝統地場産業の一つである窯業の変遷を通して、その社会背景を見ていくとともに、近世窯業と現代地場産業の関わりを考える。第14回と第15回は近世と近現代の関わりを「モノ」を通して考える。最後に内容の理解度の確認と今後の講義内容や方法の検討材料のために試験を実施する。		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review			
キーワード/Key word	遺物 近世考古学 近現代考古学 陶磁器 伝統産業 窯業		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	適宜、プリントを配布し、教科書は使用しない。参考書は授業の進捗に応じて紹介する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	レポート・課題9点×10回×7/9=70点(90点満点を70点に換算)、最終試験30点の計100点		
受講要件(履修条件)/Requirements	授業内容に関連する書籍・論文の読書、長崎市内の施設・遺跡の見学を授業の予復習とする。		
アクセシビリティ/Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考(URL)/Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	質問や相談は気軽に。		
授業計画詳細/Course Schedule			
回(日時)/Time(date and time)	授業内容/Contents		

第1回	近世・近現代考古学入門（講義全体の内容や取り組み方などを説明する。）
第2回	近世・近現代考古学入門（長崎と近世・近現代考古学）
第3回	暮らしと「モノ」（1）（近世・近現代考古学から暮らしの中にあふれる「モノ」の意味を考える。）
第4回	暮らしと「モノ」（2）（陶磁器と生活）
第5回	近世の産業と社会（1）（肥前の窯業の成立）
第6回	近世の産業と社会（2）（地域的な窯業圏の成立、すなわち、地場産業の成立を見る。）
第7回	近世の産業と社会（3）（地域的な窯業圏の地域差－有田と波佐見）
第8回	近世の産業と社会（4）（技術革新と生産体制の確立）
第9回	近世の産業と社会（5）（肥前磁器の海外輸出1）
第10回	近世の産業と社会（6）（肥前磁器の海外輸出2）
第11回	近世の産業と社会（7）（磁器の量産化と社会普及の背景をみる。）
第12回	近世の産業と社会（8）（生産機構の変容）
第13回	近世の産業と社会（9）（産業の近代化と現代地場産業の関わりを考える。）
第14回	「モノ」が語る戦争（戦争の遺産について考える。）
第15回	「モノ」から見る現代社会（近世・近現代考古学が果たす役割をみる。）
第16回	試験（講義の総括と確認のための試験を実施）